

### 山行報告

#### 雁ヶ腹摺山(9月2日)

参加者 会員(障害者3名、健常者9名)  
会員外(障害者1名、健常者6名)

車窓からは時々薄日が差していたが、タクシーで大峠近くに来るとガスの中になってしまった。ただ、ガスの中から山の稜線が見え、展望に期待が広がる。

今回は、立教大学コミュニティ福祉学部の学生さんが3名参加してくださった。初参加の方も3名いて、普段の山行よりかなり平均年齢が低かった。大峠で自己紹介をして、登りはじめる。



山頂直下でサポートする立教の学生さん

急で、なかなか険しい道だ。栈道などもあり、巻き気味に山頂に向かう。運動靴のため滑りやすいが、学生さんからもサポートを体験してもらう。山頂直下は草原となっていて、気持ちの良い場所だ。草原には、トリカブトやキオン、

マルバダケブキなどが咲いていた。雲が多くあきらめていた富士山が、雲の上に顔を出してくれた。まさに「頭を雲の上に出し〜」だ。山頂では、500円札を持ってきたNさんが披露してくれた。雲の中には、お札のように多くの山並みが見えることでしょう。



雁ヶ腹摺山の山頂にて

山頂を後にして、下山にかかる。登山道は危険なところはないが、とにかく滑りやすい。多くの人がしりもちをつき、ズボンが泥だらけになってしまった。しかし、霧が尾根を流れ、幻想的な風景を作り出している。白樺平で休憩し、登り尾根を下る。こちらもしばらくは歩きやすかったが、林道に下り立つ手前は、かなり滑りやすかった。

林道を少し歩き、橋を渡ったところから金山峠への登りにかかる。ここは、コースタイム20分と書いてあるが、10分程度でたどり着いた。峠から沢に降りる道と尾根上を行く道に分かれるが、時間的に沢に降りる方が早いと思い、急な斜面につけられた登山道を下る。慎重に下ると、沢に下り立った。ホッと一息と思いきや、ここからが正念場だった。次ぎ次ぎに現れる滑

りやすい丸太の橋を渡り返す。10回以上渡っただろうか？ 朽ちた橋を避けて、沢を渡っていたら、Fさんが滑って転んでしまった。怪我などはないが、服をかなり濡らしてしまった。なかなか着かず、心細い登山道は、上に上がりはじめた。道は非常に細く、谷側は切れていて、道も傾斜している。ここが一番心配だったが、少し登ると、コンクリートで固めた斜面が見えたので、そこが林道であることが分かった。しかし、一番厳しい道を全員が無事に通過するまで、心配でならない。迎えに行こうと思ったが、すでに最後尾もすぐそこまで来ていて、全員が

### 小樽山(9月9日)

参加者 会員(障害者3名、健常者10名)

塩山駅からタクシーで焼山峠まで行く。焼山峠に着いて登り口を確認するが、どうも方向感覚が違っている。これは、後山林道が通行止めで、タクシーが琴川ダム経由で来たためだった。車の中からダムが見えたのでおかしいなと思ったが、これですっきりして、出発する。

全盲のIさんは、今回、ダブルストックでの歩行にチャレンジだ。道が歩きやすいこともあるが、順調に登っている。しばらく行くと、大きな木が何本も折り重なるように倒れていた。先日の台風の影響だろう。幹の根本から完全に折れている。台風のすさまじさに驚く。倒木帯は、できるだけ歩きやすいところを探しながら通過する。倒木帯を抜けると、通常の登山道になった。それでも小枝は無数に折れて落ちている。

新道と旧道の分岐は、急な登りのある新道に行く。ここは、旧道の方が楽だった。マルバダケブキやカワラナデシコを楽しみながら的岩を過ぎると旧道と合流した。溜まり水となって

林道に下り立った。ホッと肩の荷が下り、金山鉱泉に向かう。

金山鉱泉で、希望者が入浴し、タクシーを呼んでいただき、大月に向かった。登山経験が少ないサポーターの方にも、しっかりとサポートしていただき、無事に降りられたことに感謝しています。

### コースタイム

大峠(10:40)...雁ヶ腹摺山(11:45-12:35)...白樺平(13:30-13:40)...金山峠(15:30-15:40)...金山鉱泉(17:30)

いる一杯水を過ぎると山頂は近い。白樺林を過ぎ、ウメバチソウやワレモコウの咲くところを過ぎると、山頂に飛び出した。広い山頂で昼食にする。Iさんが持ってきたフルーツを演奏している。山頂からは、残念ながら富士山などが見えなかったが、塩山の町が見下ろせた。



台風の影響で倒れた木を越える

山頂から焼山峠まで下り、ここから予定にはなかったが、幕岩まで往復する。幕岩には、全員順番に登ってもらった。岩の上は展望が素晴らしい。遠くに見えていた山は、茅ヶ岳だろうか？ この岩場は、高さが10m程度で、斜度が70度から80度はありそうなため、ロープを使って視覚障害者の人たちの下りの確保をする。

幕岩を楽しみ、焼山峠まで戻る。かなり時間もオーバーしたため、少し急いだ。Iさんは、

まだずっとダブルストックで歩いている。幕岩までの途中には狭い道で切れたところもあったが、そこもダブルストックで来たようだ。適切なサポートが絶対条件だが、ダブルストックでもここまで歩けることは、大きな成果となった。



小樽山山頂にて

峠からは少し急ぎたいため、通常の方法で歩いてもらう。七曲がりから沢沿いになる母恋し道を順調に降りる。ただ、ここも台風の爪痕で木々の枝がたくさん折れて落ちていた。秋の紅葉も心配だが、これだけ枝を落として、もとに戻るのにどれだけの時間がかかるのだろう

## 唐松岳(10月6日～7日)

参加者 会員(健常者7名)

10月6日

前日の夕方出発したグループは、八方の近くのペンションに泊まり、八方まで車で送っていただく。

夜行バスで来たグループと合流し、予定より早く動き出したゴンドラリフトで上に向かう。ゴンドラリフト周辺はまだ紅葉していなかったが、黒菱リフトを降りると、池の周辺が紅葉していて、草紅葉の向こうに白馬三山が見えていた。

最後のリフトを降りたち、八方池山荘から登りはじめる。とにかくすごい人数の登山者だ。

か？ そんなことを考えながら歩いていると、林道に飛び出した。ここが父恋し道との分岐になる。ここで、タクシーを呼び、1時間後にオーチャードビレッジまで来てもらうことにする。長い林道だが、ツリフネソウやフシグロセンノウ、萩などの花が楽しませてくれた。塩山駅近くの温泉銭湯に入って、びっしょりかいた汗を流して、ロビーで休憩させていただいたら、どこかの社長さんがバスで出かけるので、駅まで行く人は乗せていってくれるという。ロビーで休ませてもらったり、無料で送迎してもらったり、すごくラッキーだった。山道は予定より遅れ、風呂にも入ったのに、予定時間の電車に乗車して帰着の途についた。

## コースタイム

焼山峠(10:20)...小樽山(11:55-12:30)...小樽峠(12:40) ... 幕岩 (13:00-13:55) ... 木樽峠(14:10-14:20)...林道(15:20-15:30)...オーチャードビレッジ(16:10)

ただ、日帰りで八方池までの人たちも大勢いるようだ。

東側に雲が多く、日が当たっていないため、紅葉は見栄えがしない。それでも、白馬三山の上から覗いた青空が広がってきて、八方池を過ぎる頃から日が差しはじめた。五竜岳や鹿島槍ヶ岳方面の展望も楽しみながら、高度を稼ぐ。紅葉の美しい下の樺、上の樺と過ぎ、見晴の素晴らしい丸山ケルンに到着。途中の扇雪溪は、まだ少し残っていた。オオヒョウタンボクやナカマド、オオバタケシマランなどの赤い実が、楽しませてくれる。

最後のトラバース道を進むと、唐松岳頂上山荘の脇に飛び出した。剣岳がシルエットで迎えてくれる。小屋の受付を済ませてから、山頂を往復する。



唐松岳山頂にて

ほとんど枯れていたコマクサの中に、わずかに花を付けていたコマクサもあった。山頂の手前で、槍ヶ岳が頭を出した。富士山と共に、槍ヶ岳を見つけるとうれしくなる。山頂からは、富山方面の海岸線も見えた。

山荘に引き返し、5人で牛首の岩場の様子を確認に行く。山荘からほんの少し上がると、すぐに岩場が現れる。しっかりとした鎖が付いているので、安心だが、岩場が苦手な人は足がすくむかも知れない。視覚障害者の人をサポートする場合は、ロープで確保する人と、足場を支持する岩に慣れた人が2人以上いる必要があると感じた。だいたいの様子が分かったところで、山荘に引き返す。これから、素泊まり組は夕食の準備だ。今日は、生野菜を使ったカレーライスと蟹サラダ。山荘の夕食よりも、良かったとか？



茜色の雲に包まれた剣岳

黒部の谷から湧き上がった雲の向こうに夕日が沈んでいく。一瞬一瞬にさまざまな光景を描きながら、沈んでいく夕日。何枚もシャッターを切る。

10月7日

夜は満天の星空だと分かっていたが、風邪気味の体を早く元に戻そうと、しっかりと布団に潜り込んでいた。しかし、暖房と人いきれで、少々暑かった。

小屋の裏の八方尾根の頭に登って、御来光を迎える。昨日の夕日と違って、静かな日の出だった。遠く八ヶ岳の右手に富士山が望めた。雲海の上には、雨飾山、火打山などの妙高山群や高妻山などの戸隠の山々、そして四阿山、浅間山、八ヶ岳、富士山、南アルプスなどが浮かんでいた。振り返ると、剣岳にも日が当たり、明るさがあふれてきたようだ。



朝の剣岳をバックに

朝食を済ませ、7時30分に小屋をあとにする。今日は、昨日よりも素晴らしい快晴だ。遠くの山々を眺めながら下る八方尾根は楽しいのー



八方池と白馬三山

言。見上げると、真っ青な空に巻雲や鱗雲が流れ、紅葉と共に、美しい秋を演出している。五竜岳や鹿島槍ヶ岳も、朝の斜光線を受けて、山肌に陰影が付き、立体感がある。八方池には、

真っ青な空の下で、白馬三山や不帰岳が姿を映していた。第2ケルンからは、八方山経由で下ることにする。道はこちらの方がやや悪いが、展望は素晴らしい。大空には、いくつものパラグライダーが舞っていた。振り返ると、たおやかな尾根の向こうに、登ってきた唐松岳が遠くに見えていた。

下山後は、バス停近くにある第一郷の湯に浸かり、汗を流してさっぱりして、白馬駅から特

### 足和田山(10月14日)

参加者 会員(障害者5名、健常者12名)  
会員外(健常者7名)

新宿から河口湖駅への高速バスは、渋滞もなく順調に走った。河口湖駅で全員集合し、バスを乗り換え、紅葉台入口で下車する。ここで、自己紹介をして林道を歩き始める。

乗馬のできる牧場を過ぎ、万葉の歌碑からも林道を進んだ。ツリバナのかわいい実を写真に収める。今回は、立教の学生さんが6人参加した。一人だけ男性だったが、彼は登山をしているということで心強い。学生さんたちに、交替でサポートを体験してもらう。

林道から登山道に入り、急な階段を登ると、レストハウスに到着した。高速バスの中からは富士山が見えたが、すでにここからは見えなくなっていた。それでも樹海や大室山などの展望はあった。

ここから登山道を歩くと、すぐに三湖台に着いた。ここは、最高の展望台だ。富士山は見えなかったが、足もとの西湖とその上の十二ヶ岳、鬼岳、王岳の山々や、本栖湖、その左の竜ヶ岳、裾に広がる樹海など、雲が厚かったが、よく見

急で新宿に向かった。

### コースタイム

10/6 八方池山荘(8:35)...八方池(9:50-10:10)...  
丸山ケルン(12:20-12:35)...唐松岳頂上山  
荘(13:35)...唐松岳山頂と牛首を往復  
10/7 唐松岳頂上山荘(7:30)...八方池山荘  
(11:00)

えた。ここから足和田山まではかなり時間がかかるので、ここで昼食とする。



三湖台からは、広い道を巻き気味に進む。サラシナショウマやトリカブトが咲き楽しませてくれる。マムシグサも真っ赤な実を付けていた。すれ違った人が、山頂はすぐそこだと教えてくれた。そのとおり、山頂に到着。女子学生たちは、展望台に登って、はしゃいでいる。集合写真を撮って、下り始める。意外と急なところも



あり、下りは力のある方にサポートしていただ

く。天神社に着いたところで、近いバス停に下りたいという意見が出たので、勝山まで歩くことを止め、大嵐に下山する。少し下るとすぐに民家のある舗装道路となり、あっという間にバス停に着いた。

今回は、多くの方に参加していただき、ありがとうございました。富士山と青空は望めませ

## 石割山(10月18日)

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)  
会員外(健常者2名)

空には青空が見えるものの富士山は見えない。足和田山で見ることができなかったのも、今度こそ見たいと思ったが、残念ながら見ることはできなかった。



甘く美味しいイチイの実

高速バスを平野で降り、山伏峠方面に歩き始めたつもりだった。しかし、しかし、石割山ハイキングコース入口のバス停は見あたらないし、石割の湯まで1.5kmなどという看板もある。どうもおかしいと思いつつ、石割山方面に向けて曲がったが、道が判然としない。地元の方に道を聞いて歩いてみるが、どうもおかしいと感じながら、それでも歩いていってみると、車道が見えてきた。車道を歩いているうちに、最初歩いた道は、山伏峠方面ではなく、切通峠方面だったことが分かった。それが分かると、あとは分かりやすい。最初の予定とは違うが、石割

んでしたが、一度も雨に降られず、楽しくのんびりと歩くことができたかなと思います。

## コースタイム

紅葉台入口(10:20) ... レストハウス(11:10-11:20)...三湖台(11:35-12:20)...足和田山(13:40-13:55)...大嵐入口(15:00)

の湯経由で登ることにする。石割の湯は、休館だった。

凸凹道の林道を登っていくと、分岐に到着した。指導標がある方向には、鎖がかけれ関係者以外立ち入り禁止と書いてある。それで、沢筋の道をそのまま行ってみたが、沢を渡ってしまうようで、どうもおかしい。引き返して、指導標の方向に登っていく。人が歩いた足跡もあり、こちらが正しかった。赤い鳥居から登ってきた道とも合流し、淡く色づき始めた木々の下を、広い整備された道に沿って歩いていく。白いリュウノウギクがたくさん咲いている。石割山の姿も見えてきた。富士山は見えないが、山中湖がよく見える場所もあった。



木漏れ日の登山道を歩く

石割神社に着くと、桂のご神木があり、その後に石割山の名前のいわれとなった割れた大きな石があった。ここからは、急登が続く。木の根に掴まったりしながら、ぐいぐい登り、石割山の山頂に12時過ぎに到着。ここは、素晴らしい展望の場所だ。富士山は雲に隠れて見えないが、裾野の北富士演習場や大平山方面、杓子

山方面がよく見える。開放感のあるすがすがしい気持ちで昼食を食べる。

山頂からは、少し急な道があるが、二十曲峠付近からは歩きやすい道となる。リンドウやヤマラッキョウ、トリカブトなどが咲き、テンナンショウの実が真っ赤に実っていた。二十曲峠付近は、紅葉が美しい。ススキの穂も秋の風情を醸し出している。歩きやすいながらも道を登り、標識のない加瀬山を過ぎると、草原状のところが現れる。ガマズミの実がたわわに実っている。麓ではイチイの実がたくさん付いていたが、今年は実の付きが良いのではないだろうか？ 立ノ塚峠だと思われるところから内野

### 奥久慈男体山(10月28日)

参加者 会員(障害者1名、健常者10名)  
賛助員(健常者1名)

昨日、大雨を降らせた台風は、時速90km位で通り過ぎ、今日は日の出前から快晴だ。家を出ると、東の空が茜色に染まりはじめるころで、上空には明けの明星が煌々と輝いていた。東の空に出ていた月は満月だろうか？

西金駅で、車できた人たちと合流し、TさんとAさんから、みんなを登山口まで運んでいただいた。車を降りると、目の前にこれから登る奥久慈男体山が、高く聳えている。形の良い岩山で、圧倒される。

登山口から一般道を登る。この山の岩は、集塊岩だった。出来の悪いコンクリートのように、無数の石を集めて大きな岩になったようだ。しかし、黒々とした岩場には、紅葉が映えて美しい。

ようやく着いた大円地越で、昼食にする。ぶどうや柿、リンゴなどの秋の味覚とみかんやいなり、おにぎり、漬け物などなどいろんな食べ

に向かって下る。林道は荒れて、土が流れて石がごつごつして歩いて歩にくい。猛烈な匂いの養鶏場を過ぎ、舗装道路を下っていくと、内野のバス停に着いた。ここにはトイレがないため、スーパーから貸していただいた。申し訳ないので、スーパーで麦ジュースを買い、スーパーの横で打ち上げをして、高速バスの中は爆睡状態だった。平日の静かな山を楽しんだ一日でした。

### コースタイム

平野(10:05)...石割神社(11:50)...石割山山頂(12:10-12:45)...二十曲峠(13:25-13:35)...立ノ塚峠(14:45)...内野(15:50)

物が振る舞われた。重くなったおなかを抱え、山頂に向けて出発する。標高が上がり、紅葉も次第に美しくなる。登山道の左側は、大きな岩壁が切れ落ちている。多くは樹林帯だが、岩壁の縁を歩くところがあり、過去にここから転落した事故も起きているようだ。



奥久慈男体山の稜線を行く

そんなところを慎重に通過し、14時過ぎに山頂に到着した。山頂の祠から下を見ると、はるか下に紅葉の木々が見える。遠くまで遠望が利き、八溝山も見えていたようだ。南側に見えていたのは、高鈴山だろうか？ 近くの岩壁をもった山も迫力がある。

記念写真を撮影して、下山にかかる。山頂からは、袋田の滝方面に続く縦走路に行く。しばらく稜線を行き、途中で男体神社方面に下る。



奥久慈男体山山頂にて

この道も、とても急で、転がったらひとたまりもないところが続くため、慎重に下る。舗装道路が大きく見えているのだが、なかなか着かない。それでも、気を引き締めて下り、ようやく

男体神社に到着した。

ここからは、車道を歩き、駐車場を目指す。西の空低く傾いた太陽が、山の斜面を染めていた。麓に住む人たちは、人里から離れてどんな生活をしているのだろうか？ 柿の実が山里の秋を彩っている。山羊がせわしなく鳴いていた。車に乗って水戸に向かい始めると、ちょうど夕日が沈んでいった。空を茜色に染めながら。

### コースタイム

大円地登山口(11:00)...大円地越(12:25-13:00)  
...奥久慈男体山山頂(14:05-14:25)...男体神社  
(15:40-15:50)...大円地登山口(16:30)

## 茅ヶ岳(11月3日)

参加者 会員(障害者1名、健常者8名)  
会員外(障害者1名、健常者2名)

この週末は、山梨県では、標高1,300m前後が紅葉のピークだ。好天に恵まれ、登山者も多く、深田公園入口の駐車場は、ほぼ満車だった。車で来たYさんたちと駐車場で合流して、簡単な体操のあと、出発する。今回は、会員外の方が3名初参加で、ふれあいキャンプのあと入会してくださったTさんが、登山に初参加だ。新鮮な気持ちで出発する。



紅葉と落ち葉の道を登る

幅広い道を緩やかに登っていく。木々が色づき始め、楽しませてくれる。前山大明神林道を越え、登っていくと、次第に山道になっていく。紅葉はますます美しくなり、歓声が上がる。歩き始めは曇っていたが、谷間にも日が差しきて、紅葉を一層引き立ててくれる。予定時間どおりに女岩に着く。女岩は沢を遮る城壁のように広がっていた。ふと気が付くと、犬が倒れている。足を怪我しているのだろうか、起きあがることができないようだ。パンやソーセージをやる人がいたが、食欲があまりないようだった。こんなところに犬を捨てた飼い主には、犬を飼う資格などない。本当に腹が立つ。



美しく紅葉した木々

女岩からは、いきなり急登になる。岩混じりの



ため、慎重に登る。登山道は、25,000分の1地形図に書かれた道と違っていた。地図は、女岩から1,550mのピークから伸びる尾根に上がって、その尾根をつめてピークに立ち、そこからコルに下りて山頂に登るようになっているが、実際には、尾根に上がらず、山腹をそのままつめてコルに上がるようになっていた。2003年版昭文社の地図は、実際の登山道が書かれていた。



コルへの道も紅葉が美しい。美しい落ち葉を踏みしめて、確実に高度を稼ぐ。コルに立つと、曲岳が見えるようになる。ここからは、岩混じりの尾根に登るようになる。岩の上に立ったら、素晴らしい展望が開けていた。山腹の紅葉も美しい。

山頂に到着すると、大勢の人たちがいた。展

## 大桁山(11月8日)

参加者 会員(障害者1名、健常者4名)

今日も素晴らしい天気にも恵まれた。参加者は少人数なので、ゆっくりと楽しめそうだ。

何もない千平駅にタクシーが待っていてくれた。タクシーに乗車し、登山口に向かうが、運転手さんもこの道は初めてらしい。登山口を少し過ぎたところで、その先がどうなっているか分からないので下車する。今日は、ここから先、千平駅に下るまで誰にも会わなかった。

車道を歩き、やすらぎの森に立ち寄る。もの

望も素晴らしい。すぐ隣に金ヶ岳がたたずみ、その左手には八ヶ岳がよく見える。雲の切れ間から甲斐駒ヶ岳や鳳凰三山も見えた。奥秩父方面は少し雲がかかっていたが、それも晴れて金峰山や端牆山がよく見えた。ただ、富士山だけは見えなかった。

昼食後、来た道とは違う尾根通しの道を下ることにする。こちらの方が比較的安全だ。紅葉を楽しみながら下る。カラマツの紅葉も美しい。防火帯の道には、ススキも逆光に輝いていた。途中で木々の間から富士山も見つけることができた。前山大明神林道に着くと、同行者とはぐれてしまったという人がいたが、林道から深田公園入口に向かう登山道のところで、同行者と出会うことができて良かった。

今日は、素晴らしい天気の下で、紅葉真っ盛りの茅ヶ岳を楽しむことができました。葦崎駅に着いて、振り返ると茅ヶ岳が夕日に染まっていた。甲府で途中下車して、ほうとうを食べて帰りました。

## コースタイム

深田公園入口(9:30)...女岩(10:50-11:05)...茅ヶ岳(12:30-13:10)...深田公園入口(15:20)

すごく赤くきれいに色づいた実がたわわに実った木があった。何という名前の木なのか分からず残念だ。

車道に戻って、川後石峠に向かう。一部、登山道を歩いたが、ほとんどがコンクリートの車道だった。峠からもコンクリート道を歩く。落ち葉がたくさん積もっているが、まだこの付近は、紅葉には早いようだ。木の階段を登り、広い道を緩やかに下り、また階段を登って、山頂直下の尾根に飛び出した。この付近は、9月の台風の爪痕が大きいようで、倒木がかなり多い。それでも、一登りで山頂に飛び出した。

山頂からは、素晴らしい展望が得られた。すぐ隣の妙義山や、西上州の山々、少し進むと、荒船山も見えた。また、近くには岩山の鹿岳(かなだけ)も見えている。Tさんはコンロで味噌田楽を温めて振る舞ってくださった。



山頂を後にし、来た道を下るが、山らしい道を歩いていないので、物足りないという意見が出たため、鍬柄山に登ってみることにする。ここまで、予定時間を大幅に短縮しているため、鍬柄山に寄っても、予定の電車に乗れるだろうと思われた。

登山口の駐車場に着き、ここから鍬柄山への登山道に入る。石尊大権現の付近には、イチヨウの実がたくさん落ちていた。帰りに拾うことにする。途中でザックを置き、台風で倒れた倒木を回り込んで、尾根に出て、少し行ったところから、岩場の登りになる。私と視覚障害者のMさんは、ロープで結び合って登る。岩場の始まりから山頂の一画まで、ずっと鎖が付いていた。私はもしものことがないかと冷や冷やだが、みなさん、岩場を楽しんで登っている。途中にあったトラバースは、足場があまりよくなくて、もし落ちたら一巻の終わりのため、とにかく慎重に登ってもらう。山頂の一画に着き、山頂を目指す。ここは鎖はなく、両側がスッパリと

切れ落ちていて、慎重にサポートしながら進む。しかし、岩場が出てきたところで、引き返すことにする。Kさんも、この高度感には、足がすくんでいたようだ。



問題は、来た道の下りだ。KさんとMZさんをロープで確保して、下ってもらう。続いて、Mさんを確保する。Tさんは、確保はいらぬというので、Mさんの前を下ってもらって、足場を支持してもらう。そんなことを繰り返すが、KさんとMZさんは、トラバースのところ以外は、確保はいらぬという。心配だったが、心強い。Mさんをサポートしながら、慎重に下り、16時30分頃、安全な場所に下り立った。

帰りは、イチヨウの実を拾って帰った。車道に出ても、誰にも会わない。今日は静かな山行だった。千平の駅について、MZさんとTさんが、酒屋さんを探しに行ったが見あたらぬ、引き返してきた。空には、カシオペアが見えていた。ホームズ彗星も見えていたかも知れない。

### コースタイム

駐車場(10:30)...川後石峠(11:25-11:30)...大桁山(12:10-13:00)...やすらぎの森(14:10-14:25)...鍬柄山登山口(14:40 鍬柄山往復 17:00)...千平駅(17:25)

### 鐘ガ岳(11月18日)

参加者 会員(障害者3名、健常者12名)  
会員外(健常者4名)

今回は、伊勢原からバスで行く計画をしており、ホームページを見て、計画したバスはないと教えてくださった方がいたので、バス会社に確認したところ、こちらの計画で間違いはなかったのだが、実際に伊勢原駅に行ってみると、予定のバスは日向薬師行きで、七沢行きは9時40分だった。

予定より遅れてバスを降り、少し車道を歩いたところで挨拶とするが、近くの家の方が私たちがいるとその人の家の犬が吠えるため、先に進んだところでやってくれということだった。しばらく歩いたが、犬の声は止まらなかった。

鳥居のところで挨拶をして、2班に分かれて登り始める。登山道は、植林帯の中に付いているため、かなり暗い。しかし、道は歩きやすかった。ただ、尾根上を進むため、所々両側が切れて細いところもあった。あまり紅葉していないが、落ち葉が豊富に積もり、色合いもきれいだった。

26丁目くらいから石段となった。長く急で、細かい石段だ。踏み外さないように気をつけて登る。大きな石を回り込み、さらに石段を登ると、ようやく浅間神社に飛び出した。ここでお昼にしようと思ったが、日影で風が冷たいため、Sさんに山頂を見てきてもらい、山頂の方が寒くないということで、山頂でお昼にする。



鐘ガ岳山頂にて

MさんとHさんからコーヒーを入れていただいて体が温まったら、Mさんが忘れていたと凍らせたグレープフルーツを出してくださった。

冷たさに凍えながらいただいたが、立教大学の学生さんたちは何個も食べていた。さすが若さです。

ここから、山の神トンネルの上までは、少し切れたところがあったものの、それほど厳しくはなかったが、最後の下りは、滑りやすい岩場を鎖を頼りに慎重にサポートしながら下っていく。1班のTさんのしっかりしたサポートに心強さを感じながら、一步一步確実に下ってもらう。2班はHさんがしっかりサポートしてくださっていた。



鐘ガ岳からの急な岩場の下り

無事にトンネルの入口におり、ホッととして、あとは車道をのびのびと歩いて下りていく。ところが、広沢寺温泉の入口を見落とし、先頭グループは次のバス停の「河鹿の沢」まで行ってしまった。後のグループは無事に広沢寺温泉に到着した。私たちは30分ほど待って、満員のバスに乗り、本厚木に向かった。

今回も、立教大学の学生さんたちに参加していただき、素晴らしい天気の下で、みなさまの協力のおかげで、楽しい時間を過ごすことができました。

#### コースタイム

広沢寺温泉入口(10:15)...鳥居(10:35-10:45)  
...浅間神社(12:20)...鐘ガ岳(12:25-13:15)...  
山の神トンネル(13:55-14:05)...河鹿の沢バス停(14:40)

石鎚山は事務局の都合により、唐松岳に変更させていただきました。また、リーダー養成コースの鋸岳も、事務局都合のため中止させていただきました。

## 講習会報告

### 岩登り技術講習会(日和田山)(11月23日)

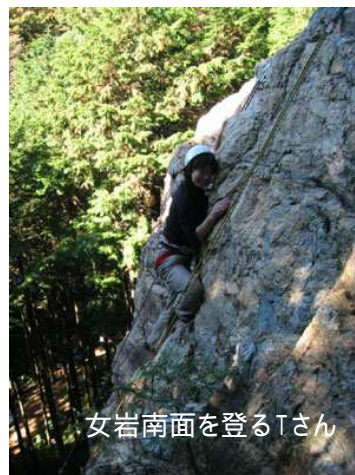
参加者 会員(障害者1名、健常者4名)

素晴らしい天気にも恵まれたものの、強い寒気の影響で寒さが身にしみる1日でした。その影響でしょうか、岩場はいつになく空いていました。

少人数だったこともあり、女岩を2本、男岩を1本登りました。岩登り初挑戦のTさんは、腕力に頼る面が強く、少しずつ足で登ることを覚えると、楽に登れるようになると思います。視覚障害者のIさんは、ダイナミックに登っていました。岩登りは数十年ぶりのYさんは、もう少し登り混むと往年の感覚を取り戻すこと

ができそうです。Hさんには、いつも確保でお世話になっています。また、適切なアドバイスもしていただき、感謝しています。

今日は冷蔵庫の中で登ったような寒さでしたが、女岩の上からはじめて富士山を見ることができました。真っ白な富士山に出会えて、ちょっと得した気分です。



女岩南面を登るTさん

5月26日と9月30日の岩登り技術講習会は雨のため中止させていただきました。

## その他事業報告

### 第4回こんにち'わ'ふれあいまつり参加(11月10日)

参加者 会員(健常者7名)

賛助員(健常者1名)

応援している「市民活動サポートセンター」が主催した、「第4回こんにち'わ'ふれあいまつり」に山仲間アルプも参加しました。

今回は、昨年と同様、山仲間アルプの活動紹介とし

て、模造紙で活動の様子を説明したり、活動の



ブースを訪れた方に説明するスタッフ

今年も千葉県八千代市の市民活動グループを



ブースにて(午後担当のスタッフ)

様子を四季にまとめたアルバムで紹介したりしました。今年は、スタンプラリーの団体に選ばれなかったので、比較的静かに訪れる方を待っていました。訪れた方の中には、活動に興味を示すだけでなく、ご自身の山の経験を話すことを楽しんでいただ方もいました。そんな交流も図れて、とても良かったと思います。

#### 第4回ミニハイキング(印旛沼)(11月17日)

参加者 会員(健常者5名)

会員外(障害者2名、健常者4名)

今回は、友愛みどり園から2名の知的障害者の方が参加してくださった。

臼井駅に全員集合し、線路沿いを歩き始める。印旛沼至る途中で、長島茂雄さんが通った臼井小学校の前を通る。長島さんは、この近くにお住まいだった。



印旛沼の畔を歩く

田園風景の中を歩き、印旛沼の畔に出る。ここからは畔をサイクリング道路に沿って歩く。葦の穂が真っ白に垂れ下がっている。障害を持つOさんが、疲れ始め、時々うずくまる。ご両親と共に「もうすぐ風車でお昼を食べるよ」と励ましながら、頑張ってもらう。もう一人のNさんは、すこぶる元気で、ペースが上がっている。ダイサギやコサギなどの野鳥を見ながらゆっ

このような催しに参加できたことを、八千代市市民活動サポートセンターに感謝すると共に、山仲間アルプの展示に駆けつけてくださった会員みなさま、どうもありがとうございました。また、山仲間アルプのブースを訪れていただいたみなさまに感謝いたします。

くり歩き、風車のある佐倉ふるさと広場で昼食とする。



佐倉ふるさと広場にて

ふるさと広場でトイレなどを済ませてから、鹿島川沿いを佐倉駅に向けて歩く。途中、送電線に止まったチョウゲンボウを発見。Mさんと私が持ってきた望遠鏡をセットして、みなさんに見ていただく。かなり遠かったものの、背中の中の縞模様がよく見えた。

Oさんは、足がいたくなつたのか何度も立ち止まったり、しゃがみ込んだりしたが、頑張っで最後まで歩き通した。腕を組んで歩いていると、時折笑顔を見せてくれた。

今日は、雲が広がってきたものの、時折日も差し、風もなく穏やかな一日でした。立教大学の学生さんにも参加していただき、みなさんお疲れさまでした。

#### コースタイム

臼井駅(10:20) ... 佐倉ふるさと広場(11:45,12:40)...京成佐倉駅(14:10)

## 第14回ふれあいハイキング(水元公園)(11月25日)

参加者 会員(障害者1名、健常者4名)  
会員外(障害者2名、健常者5名)

このところ寒い日が続いていたが、今日は素晴らしい天気恵まれ、日の当たるところでは、ぽかぽか陽気だった。参加人数は少な目だが、久しぶりに参加して下さったYさん親子とOさん親子に会い、R君、K君の成長ぶりに驚いた。二人とも中学3年生になったようだ。



しばられ地蔵を見てから、水元公園内の葛飾区金魚展示場に行く。銀魚やワキン、リュウキンなど、珍しい金魚をたくさん見て楽しむことができた。このあと、行き止まりになったりしたが、引き返し水元大橋を越え、食事処の涼亭の近くの広場で昼食にする。小合溜では、たくさんのヒドリガモが水面に浮かび、ユリカモメが

飛び交っている。YちゃんやR君、立教大学の学生さんたちは、Yちゃんが持ってきたビーチボールで遊んでいる。昼食後、みんなで写真を撮り、先に進む。ポプラ並木をとおり、メタセコイアの森を通り過ぎる。バードサンクチュアリには、カワウくらいしかいなかったが、望遠鏡で見ると、表情まで読みとれるので、みんな楽しく見ていたようだ。



さらに水性植物園を經由してカワセミの里に向かう。途中で、お目当てのカワセミが見られたが、カワセミの里に着いたら、一羽のカワセミがお立ち台ともいえる木の上や岩の上にとしっかりと止まってくれた。みんなでカワセミを望遠鏡で十分堪能してから、水元公園を後にし、大場川のバス停に向かった。

### コースタイム

しばられ地蔵(10:25)...大場川バス停(15:30)

## 各種連絡事項

### 臨時総会のご案内

山行選定委員としてAさんとKさんにご協力いただき、来年度の登山などの計画を作成しました。その内容を元に、下記の通り臨時総会を開催します。

1. 日時：1月19日(土) 15時～17時
2. 場所：東京都世田谷区上馬地区会館

### 3. 議題：来年度事業計画について

詳細は、別紙「臨時総会議案書」をご覧ください。

#### 「学びあい 支えあい」地域活性化推進事業

文部科学省が行う「学びあい 支えあい」地域活性化推進事業に以下の登山やハイキングなどが選定され、事業実施の伴う講師謝金、講師旅費、通信費、消耗品の一部を助成金としていただきました。

対象となる事業は、共に楽しむ登山事業として「西吾妻山」「雁ヶ腹摺山」「小楢山」「足和田山」「石割山」「奥久慈男体山」「茅ヶ岳」「越上山」「多峰主山」「城山」「湯の丸高原」「南高

尾山稜」「四阿屋山」、ハイキング及びキャンプは、「ふれあいキャンプ」「印旛沼ミニハイキング」「水元公園ふれあいハイキング」「神崎川ミニハイキング」となります。また、登山報告会についても対象事業となります。

事業報告を臨時総会当日、同じ上馬地区会館で、13時30分から行いますので、ご参加ください。

#### 立教大学から実習生が参加してくださっています

立教大学のコミュニティ福祉学部の学生さんが、9月の雁ヶ腹摺山から共に楽しむ登山やハイキングに参加してくださっています。登山や自然とのふれあいを福祉に結びつけること

につながればと期待しています。学生さんの装備などは不完全ですが、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

#### 今後の計画

寒さが厳しくなってきましたが、寒さに負けず、野山に飛び出しましょう。1月には恒例の湯の丸高原のスノーハイクも予定しています。四阿屋山のセツブンソウやフクジュソウ、ミツ

バ岳のミツマタなど、初春の花を見る登山も計画しています。別紙、詳細計画をご覧くださいの上、ぜひご参加ください。

#### 会員情報

新入会員のお知らせ

9月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いいたします。(敬称略)  
正会員(3名)

## 編集後記

### ・理事長のつづやき

今年の夏、リーダー養成コースの赤木沢に行った時、綿毛となったチングルマに無数の朝露が付き、きらきら輝いている光景に出会いました。その輝きは人が磨いたダイヤモンドでは、到底出せないもののように感じました。自然は、なぜこんなに美しいものを作のでしょうか？ また、風が吹けばすぐになくなってしまふし、日が昇れば蒸発して消えてしまいます。こんなに美しいものを、いとも簡単に、何もなかったかのように消し去ってしまいます。

さらに、山は誰一人差別することなく、全ての人を受け入れてくれます。人間が自分たちが便利になるために作るトンネルなども、決してダメだとは言いません。全てを受け入れてくれ

ます。

私は自分が撮った写真を人に見せたいと思うし、トンネルや林道を作ることに反対しても、できてしまえば便利になったと利用します。欲望が強く、わがままです。あまりにも未完成な私なのに、山はいつでも黙って受け入れてくれます。

山と比較したら、私は極めて未完成な生き物です。山のように、全ての人を黙って受け入れる包容力を身につけたり、全くの無欲にはなれないけれど、少しでも山のような人間になろうと努力を続けることが、わがままな自分をいつも黙って受け入れてくれる山への感謝の気持ちの表し方かなと思います。

### ・次回発行予定は、3月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで  
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208  
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝  
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

